

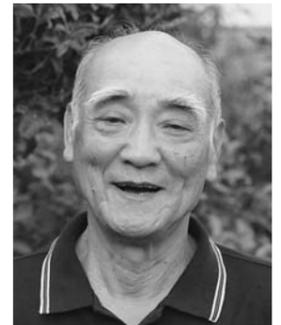
Face 顔

灯籠流しを始めたきっかけ

荒井さんは、農業（水稲とキウリ）に従事しながら、2年前より灯籠流し実行委員会の会長を務めています。今年も8月17日に第5回灯籠流しを水郷公園の揚舟発着所で行いました。灯籠流しを始めたいきっかけは荒井さんに聞いてみたところ、灯籠流しは、古き日本の慣習としてお盆の時期に各家庭で先祖をお送りする行事で、以前は板倉町でも行われていたそうですが、60年近く途絶えていたそうです。それを5年前に有志が集まり、もう一度板倉町に灯籠流しを復活させようと始めたのがきっかけだそうです。

灯籠流しの魅力

灯籠流しの活動の始まりは



荒井 新一さん

多くのかたの手によって復活 いつまでも引き継がれてほしい



Profile
あらい・しんいち 海老瀬在住／灯籠流し実行委員会の会長を務める。趣味は旅行、風景や昆虫などの写真撮影、パレールールなど。

5年前に遡ります。5年前に子どもたちが夏休みに体験学習で350基の灯籠を作りました。この灯籠が今でも活躍しています。現在運営する灯籠流しの実行委員会は、多くのかたによって運営されています。開催日の一か月以上前から350基の灯籠に言葉や絵・花を描き準備する絵手紙の会のかた、駐車場で車両の整理をしてくれるかた、焼きそばを焼いてくれるボランティアのみずほ会のかた、かき水などの販売をしてくれる商

工会のかた、揚舟の体験乗船の船頭をしてくれる漁業組合のかた、場を盛り上げるために太鼓の演奏をしてくれるはやし連のかた、さまざまな役割のかたが、いろいろな形で実行委員会に加わり、灯籠流しに協力してくれています。灯籠流しは日が落ちる頃より始まります。辺りが徐々に暗くなっていくにつれて、灯籠の中にあるろうそくの火がだんだん明るくなってくるように見えてきます。このようにして灯籠がゆつたり水面に

流れていく光景は幻想的ですらあります。
いつまでも続けるために
荒井さんをはじめ実行委員会の皆さんが灯籠流しに関わって一番うれしく思うことは、来てくれた人から「よかった、ありがとう」と声をかけられることだそうです。この灯籠流しを「今後はもっと多くのかたに見ていただき、更に盛大に引き継がれていくようになってほしい。そのためにも、若い人を実行

委員会に参加してほしい」と荒井さんは話しました。灯籠流しを守り続けるために、今年も灯籠流しの運営に関わってくれた実行委員会のメンバーに感謝しています。と話した荒井さんの目が印象的でした。



■レポーター
広報編集委員 針ヶ谷 和巳

サイエンス

東洋大学 食環境科学部
健康栄養学科

飯島久美子 准教授



■主な研究テーマ
・豆及び野菜の調理における軟化・硬化に関する研究

八升豆の調理性を探る

一般に豆や野菜は、加熱調理により軟化すると考えられています。しかし、調理条件によっては加熱しても軟化せず、硬化する場合があります。通常、軟化と硬化は同時に起こっているため、これらの現象について、飯島准教授はどのような条件で硬化及び軟化が起こるか研究してきました。現在は、主に八升豆(ムクナ属)の調理性を研究テーマとされています。八升豆には、L-dopa (エルドーパ) というパーキンソン病の治療薬にも含まれる成分が含まれており、その量をコントロールする研究もしています。

調理のこつには科学あり

研究室では、植物性食品と調理条件の組み合わせにより、調製した調理品の物性測定、色差測定、成分分析などを行い、調理過程における変化を数量的に把握し、調理操作における変化のメカニズムの解明に取り組んでおり、研究を通しての学生との関わりや講義、実習での学生の成長にやりがいを感じるそうです。「調理は食品の持ち味を生かし、食べやすく、衛生的に、栄養効率よく、更に見た目も美しい食物を調製することです。学生には、調理は科学という意識を持ってほしい」と飯島准教授は話します。

また、12月には東洋大学で町内の小学生を対象とした体験学習を予定しているそうです。「小学生に興味を持ってもらえるような実習の題材を考え中です」とこやかに話されました。

■レポーター 広報編集委員 福富 久枝

調理操作における変化のメカニズムの解明



みんなの声

はがき・電話・FAX・Eメールでのご意見、ご質問、ご感想など「みんなの声」をお待ちしています!

Q

勧誘を止めてくれる
そうですが



高齢の叔母が、金融機関で大金を引き出していました。どうしたのか聞いたところ、公的機関の職員を名乗る男性が突然自宅に訪れて、「あなたは過去にいろいろな業者から寝具や健康食品を購入しているため、今後勧誘が続きます。訪問販売業者が来ないように手続きしてあげるの、その費用として150万円必要」と言われ、現金を下ろしにきたというのでした。この後、その男性が自宅

にお金を取りに来るそうです。不審に思うのですが、どうしたらよいでしょうか。
(匿名希望)

A

勧誘が止まる保障はありません

過去に訪問販売でトラブルに遭った人が、電話や郵便、来訪などで「訪問販売業者の勧誘を止める」「被害者名簿から削除する」などと持ちかけられ、手数料を請求されたなどの相談が寄せられています。実際に手数料を支払わされたり、商品売りつけられたりして、二次的な被害が生じるケースも見られます。仮に何らかの手続きをしたとしても勧誘が止まる保証はありません。特に金銭を要求された場合は、決して信用してはいけません。きっぱり断りましょう。高齢者が不審な勧誘を受けていないかなど、身近な人が日ごろから気を配ることも大切です。困ったときは、消費生活センターにご相談ください。

問合せ 消費生活センター
82-7830
(なやみなし)